

地震がおきると、震源付近では地面が持ち上がったたり、下がったりします。これを地殻変動といいます。

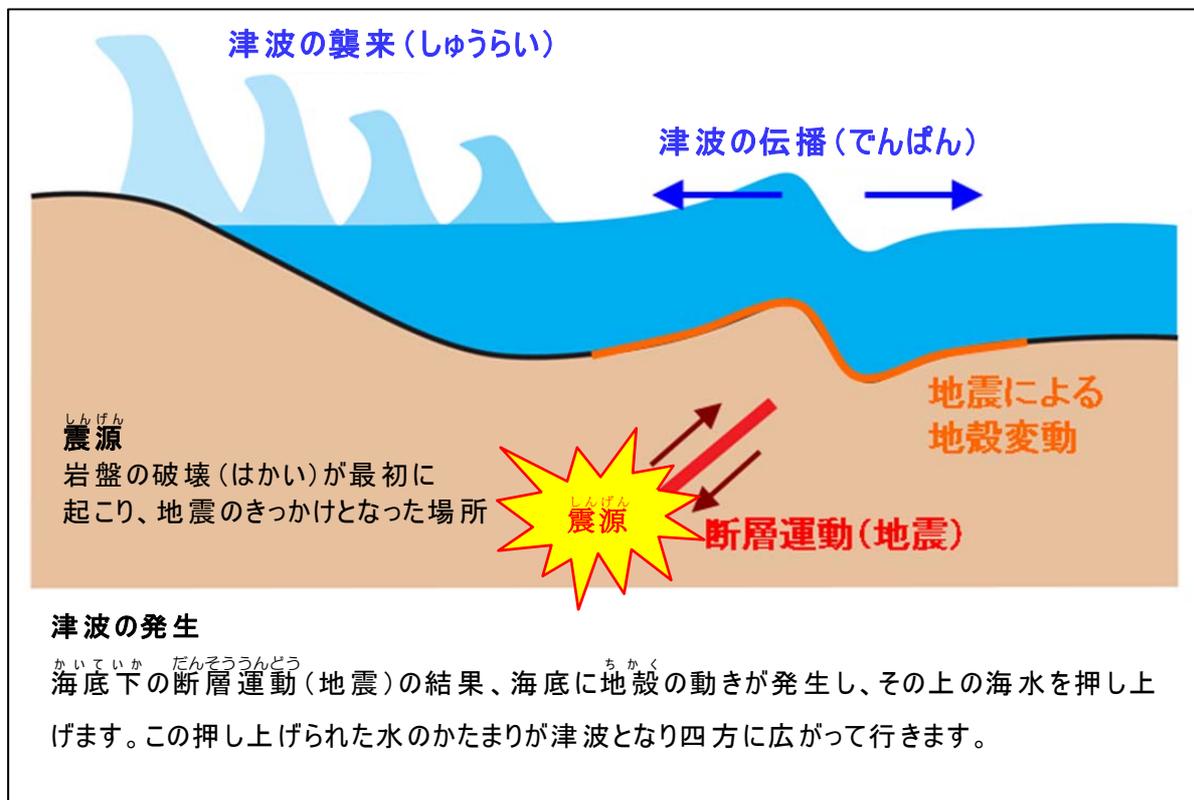
震源が海底下であさい場合、海底が持ち上がったたり下がったりし、それにより発生した海面のもり上がり、または沈みこみによる波がまわりに広がっていきます。これが津波です。

また、「津波の前には必ず潮が引く」という話を聞きますが、必ずしもそうではありません。

地震を発生させた海底下の断層のかたむきや方向によって、または津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押しよせる場合もあります。

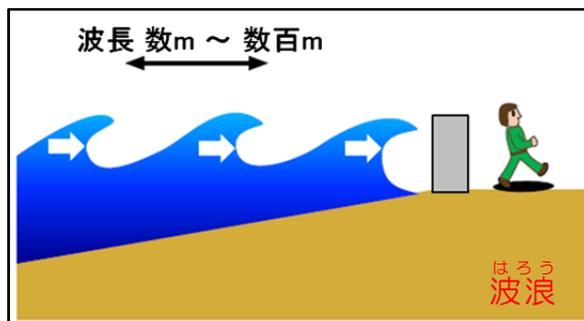
津波は何回も押しよせてきます。

最初に来た波が一番大きいとはかぎりませんので、津波警報、津波注意報が発表されている間は、絶対に海岸や川の河口付近に近づかないでください。



【普通の波（波浪）のとくちょう】

普通の波（波浪）は、波と波との間の間隔（波長）といいますが、長くても数百メートルで、動いているのは海の表面だけです。



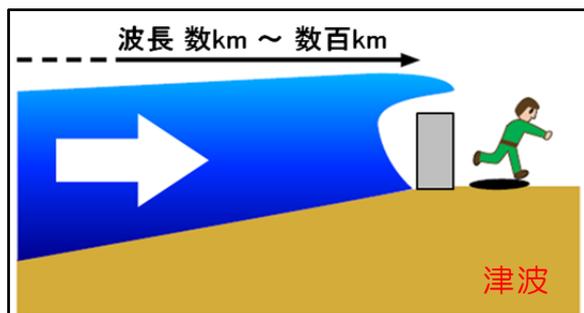
【津波のとくちょう】

一方、津波は波長がとても長く、数百キロメートルにもおよぶことがあります。

海底から海面まで海水全体が動いて巨大な水の塊（かたまり）となって、長い時は数十分海岸に押し寄せ続けます。

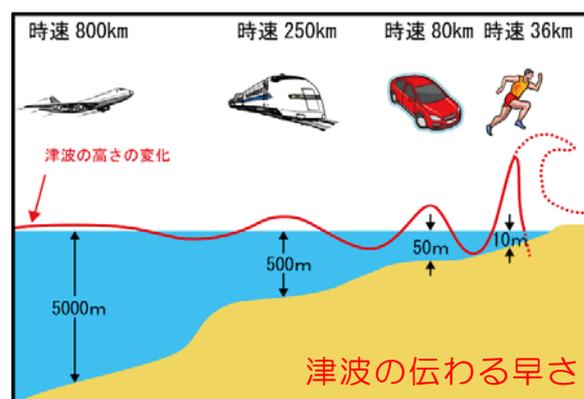
いったん引き始めると、押し寄せた時と同様の力で長い時間引き続けるので、建物などを一気に海中に引きこんでしまいます。

津波は何度もくりかえして襲（おそ）います。はじめにきた波が一番高いとはかぎらず、数時間以上すぎてから最も高い波が来ることもあります。津波警報が解除されるまでは避難（ひなん）を続けてください。



【津波のはやさ】

津波が進む速さは、海が深いところではジェット機並みですが、海が浅くなると次第に遅くなります。それでも海岸付近では100m走のオリンピック選手並みのスピードがあるので、津波を見てから走って逃げたのでは間に合いません。その遅くなった津波の後ろに次の津波が追いつくので、津波は海が浅くなるにつれ急激（きゅうげき）に高くなっていく性質（せいしつ）があります。



【津波が高くなる場所】

岬（みさき）の先や入江（いりえ）の奥のような地形の海岸では津波が集中（しゅうちゅう）し、津波の高さがさらに高くなる場合があります。

